

片付けがすすむ町で 声かけながら地域訪問



3月26日、神奈川民医連看護師内広美・遠山英子、東京民医連看護師竹田美枝子、事務竹原亮、山梨民医連 PT 田中洋平、OT 中村吉秀、宮城看護師松田洋子さんは小雨の中、多賀城市八幡地区で、訪問活動を行いました。

訪問した殆どの家は床上浸水1m以上で、電気は復旧したものの1階は漏電の危険があるため使用禁止、2階で生活している人が何人かいました。小学1年の子どもさんが糖原病で、プロテイン治療薬がなくなりかけ、おにぎりを何回かに分けて食べていた。とても心配だったが山形経由で入手できホッとしたという若い母親、自宅の片付けを終え、友人の家の片づけを手伝っていた女性は、やはり男手があればと話していました。片づ

けで腰痛になった人には松田さんが偶然持参していた湿布薬を差し上げました。中村吉秀さんは「訪問で薬の配布は難しいですが、湿布薬や軍手など復旧作業をしている人に配布することができれば」と話していました。

「スピーカー付移動薬局」を提案

石巻で訪問行動



石巻市湊小学校避難者の会会長の庄司慈明氏（税理士）の要請で、ハンドマイク医療班を編成した。参加は庄司慈明、宮城厚生協会の村口至（医師）、曾我邦昭・高橋敬文（事務）の4人。3月22日（火）約2時間半、石巻市湊、不動、稲井地区などを泥で埋まる道を歩いて訪問した。

家屋半壊住宅の多い地域であり、2階から動けないお年寄りの診察、玄関先での血圧測定、片付け作業中の腰痛再発した人に湿布薬を配布するなどした。薬を津波で失くした、病院にいけなくて治療を中断しているなどの理由で、血圧が180～200の人も目立った。

過換気症候群で安定剤が欲しい等など、約20人の相談に応じた。半壊地域に必要なのは「スピーカー付移動薬局」と考え、県薬剤師会や庄司慈明氏（市会議員）に提案した。（報告 村口 至）

トリアージ数12日間で4,446件



トリアージポスト最後のスタッフ

地震直後から立ち上げた坂総合病院でのトリアージ体制、3月11日から22日22時までの12日間で、トリアージ黒（11）、赤（185）、黄（880）、緑（1296）処方本院（823）・クリニック（1876）合計4446人の対応にあたりました。そのうち救急搬入は311件でした。

トリアージポスト最後の患者さんは、21時35分、左膝外転で訪れた61歳の男性でした。3月22日22時、玄関が閉じられ、以降は防災室からの出入りとなりました。トリアージポスト最後のスタッフは「お疲れ様でした」と声をかけあいました。

全国支援 3月26日午後5時現在 累計914人

罹災証明書 塩釜市では3月28日から約1週間100人態勢で調査。市役所では調査後随時罹災証明書を発行予定。被災された方は被害状況を写真撮影しておく便利です。